

県内絵画遺品調査報告

宮城篤正*

はじめに

先きに沖縄県教育委員会では、昭和52年度文化庁国庫補助金を得て県内に現存している絵画遺品調査を実施し、その報告書が刊行された。（昭和52年度、沖縄県文化財報告書第11集、重要歴史資料調査報告書Ⅱ、県内絵画遺品調査報告書、沖縄県教育委員会）

小生は県文化財審議会専門委員として玉那覇正吉氏（琉球大学教授、県文化財保護審議会委員）と共にその調査にあたった。

戦前、啓明会の援助を受けた鎌倉芳太郎氏〔現在、型絵染で国の無形文化財技能保持者（人間国宝）〕が沖縄本島は勿論のこと、久米島、宮古、八重山あたりまで琉球芸術調査を行なった。その成果の一部が昭和4年平凡社発行の『世界美術全集』（第22巻～第27巻、ただし第23巻を除く）に掲載された。その後、昭和51年度に「一失なわれた遺宝—50年前の沖縄」写真展（会期 昭和47年（1972）2月6日～3月12日）が当館とサントリー美術館の共催で行なわれたが、その図録に絵画作品の写真が17枚〔うち御後絵2枚（同部分3枚）、壁画3枚、天井画2枚〕が掲載された。

古美術関係の雑誌『古美術』（昭和47年発行）第36号に「失なわれた琉球の絵画」という題で鎌倉氏は論文を発表された。同氏は現在、琉球芸術についての本を出版すべく鋭意その原稿を執筆中である。沖縄は戦争によってすべてが破壊され、文化財はことごとくに焼失してしまった今日、戦前における貴重な調査に基づいて書かれる先生のご本が1日も早く出版されることに大きな期待を寄せている。

戦後30余年を経過したとはいえ沖縄で、この分野における本格的な調査がこれまで一度も行なわれたことがなく、前述した県教育委員会の調査は殆んど白紙の状態から出発したのであった。

加えて、沖縄県は多くの離島をかかえていて、調査についてやした日数も当初の予想をはるかに上回った。お互いの日程調査にもかなり苦労をした。

ひとつの方法としてある程度の目標をたてて、はじめから絵画遺品がなさそうな島々と地域については、当初から除外した。しかし、それでも期限内で調査が完了出来ないことがわかった。調査日程から除いた島々や地域に予想通りなにもなければ問題はないが、あれば基本的なミスを犯すことになる。その予想がはずれていなかったか、どうか正直のところいまでも多少気にかかっている。

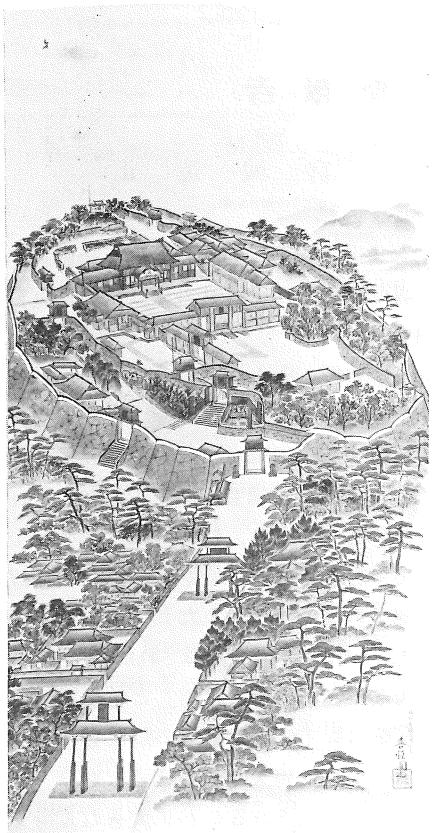
調査もいよいよ最終に近づくにつれて時間的余裕が全くなくなり、肝心の那覇地域にそんなに時間をかけることは出来なかった。

一方においては、作品を確認しながらも時間切れでとうとう調査をすることが出来なかつた事情等も生じた。

このような事情があったので報告書が出た直後から小生は機会をみつけて調査を継続してきた。今回ここに取上げた作品がその後の調査でわかったものであるが、前述の調査報告書とあわせてみて載きたい。しかし、この種の調査はいくら時間をかけても完全を期することは殆んど不可能に近かい。したがって調査は今後も継続する必要があるし、そのことが最良の方法と考えている。

* (みやぎとくまさ、沖縄県立博物館学芸員)

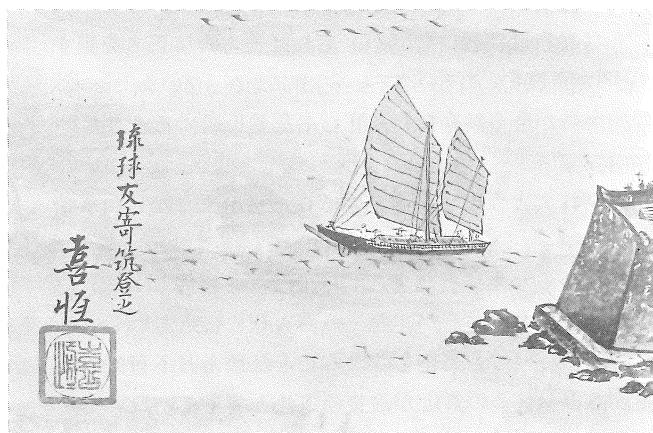
図版 1



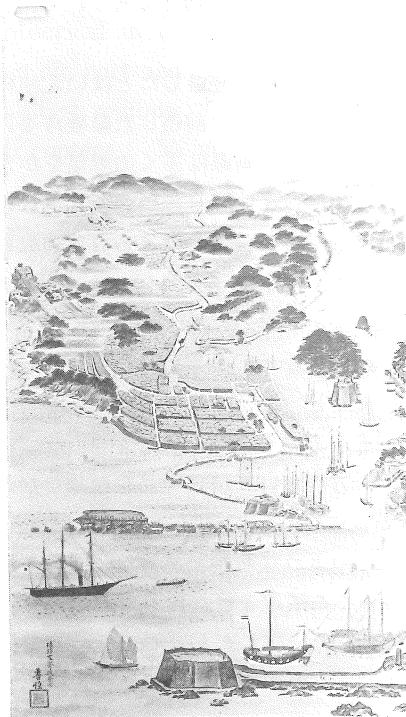
1 首里城の図 友寄喜恒筆



1-① 首里城の図（部分）

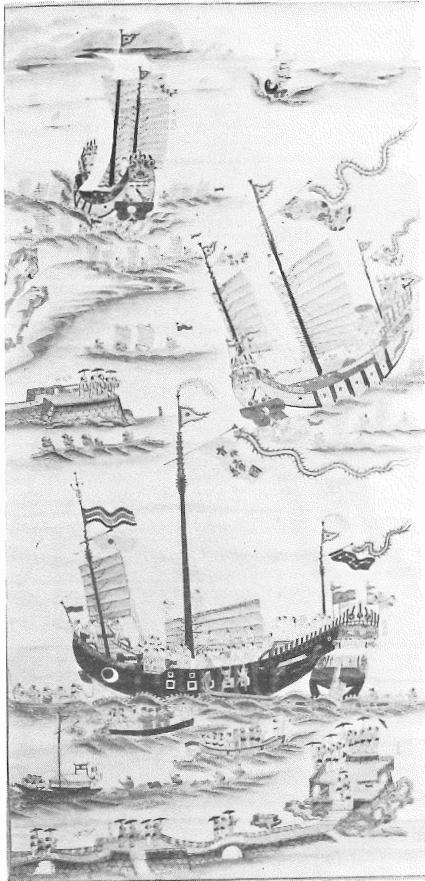


2-① 那霸港の図（部分）

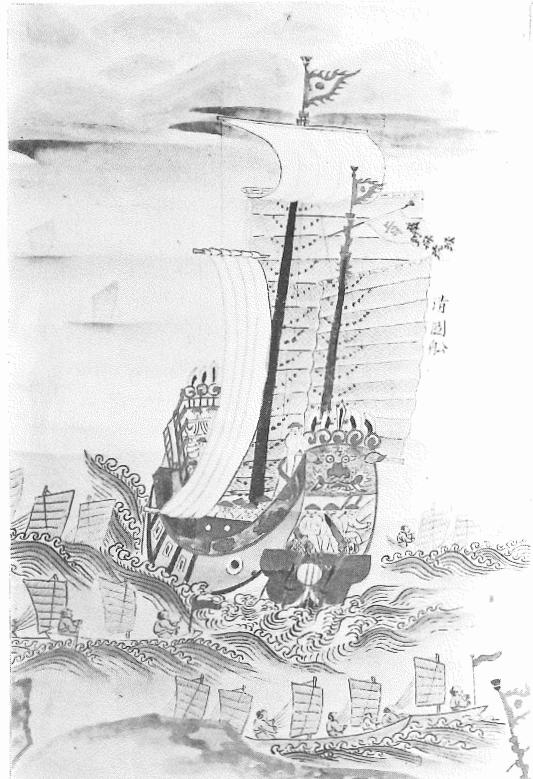


2 那霸港の図 友寄喜恒筆

図版 2



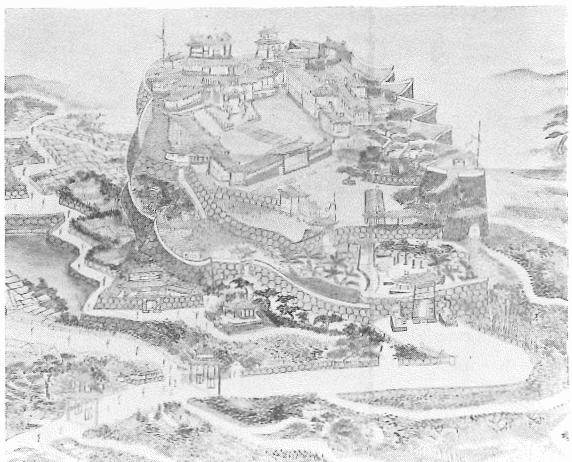
3 御冠船の図 筆者不詳



3 - ① 御冠船の図（部分）

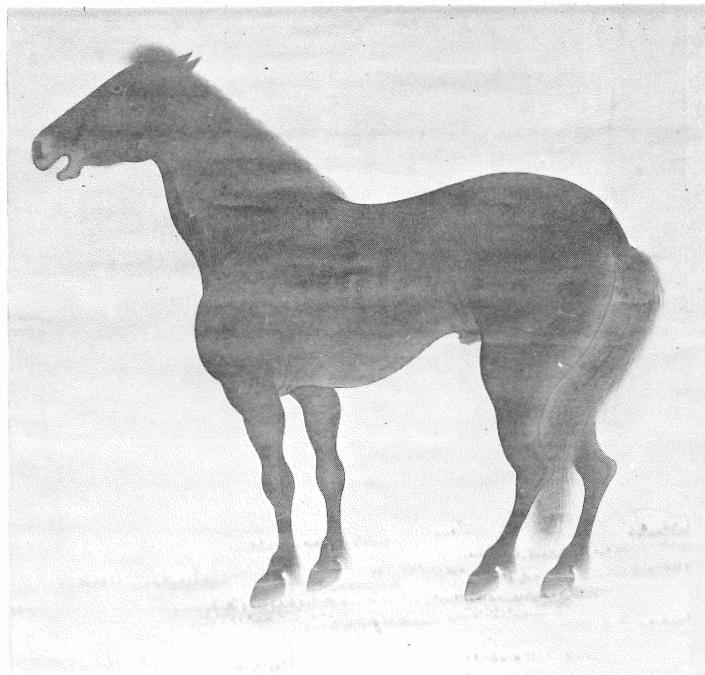


4 首里那霸鳥瞰図 筆者不詳

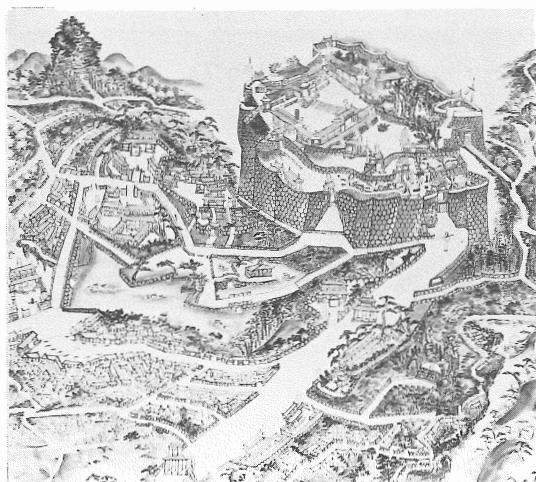


4 - ① 首里那霸鳥瞰図（部分）

図版 3



5 仲田青毛の図 毛長櫛筆



6-① 首里那霸鳥瞰図（部分）



6 首里那霸鳥瞰図 筆者不詳



7-① 士族父子之図



7-② 士族之婦



7-③ 那霸士族之女反物壳之図



7-④ 華族之婦女



7-⑤ (士族の婦人)



7-⑥ 市場細物壳之図

図版 5



7-⑦ (母子)



7-⑧ (子守り)



7-⑨ 近在農民妻子芋菓物壳之図



7-⑩ (市場へ向かう男女)



7-⑪ (弾琴の図)

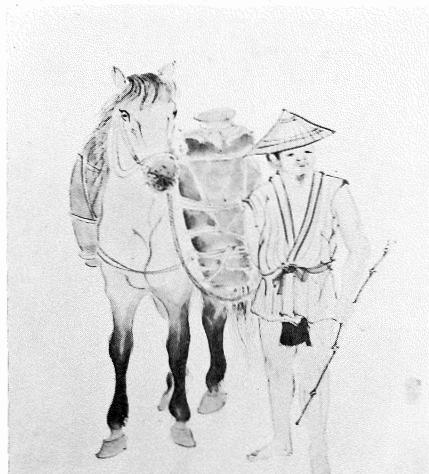


7-⑫ 媚妓と客人

図版 6



7-13 (子豚売り)



7-14 (泡盛の運搬)



7-15 於市場売豆腐図



7-16 糸満漁師夫婦



7-17 (機織りの図)



7-18 (織婦の図)

図版 7



7 - ⑯ (田植えの図)



7 - ⑰ 農夫芋堀之図



7 - ㉑ (遊戯の図)



7 - ㉒ (穀摺りの図)



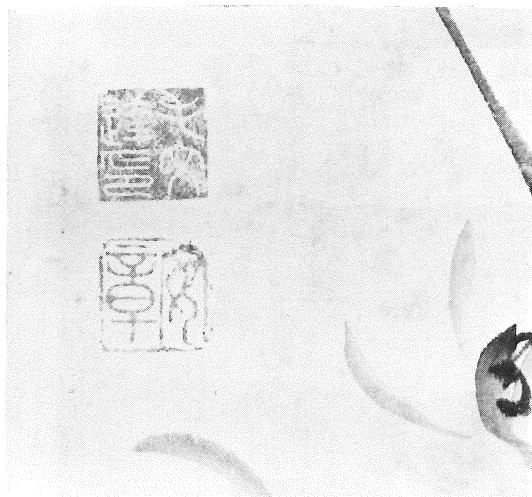
7 - ㉓ (三昧線をひく男女)

(註) カッコ内は筆者が付けた題である。

図版 8



8 蘭の図 毛文達筆



8-① 蘭の図（部分）

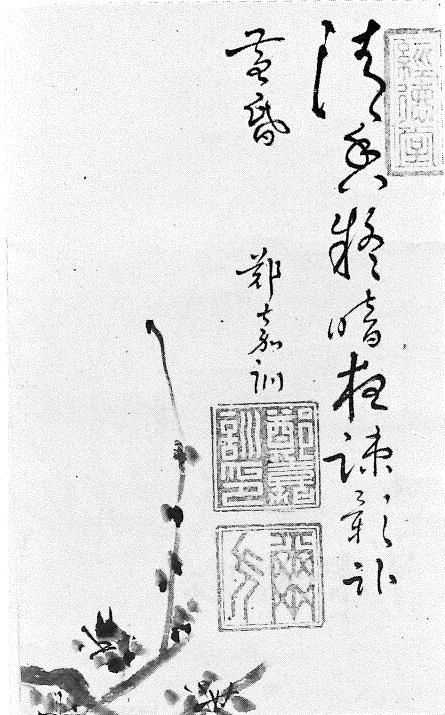


9 肖像画 筆者不詳

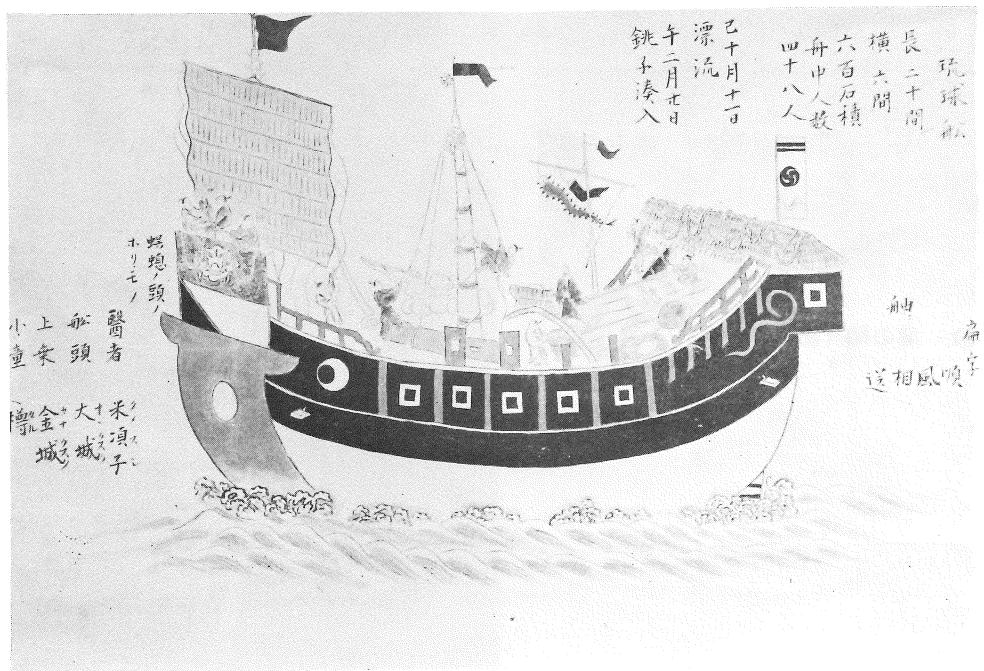
図版 9



10 梅に岩図
鄭嘉訓筆



10-① 梅に岩図（部分）



11 琉球船の図 筆者不詳

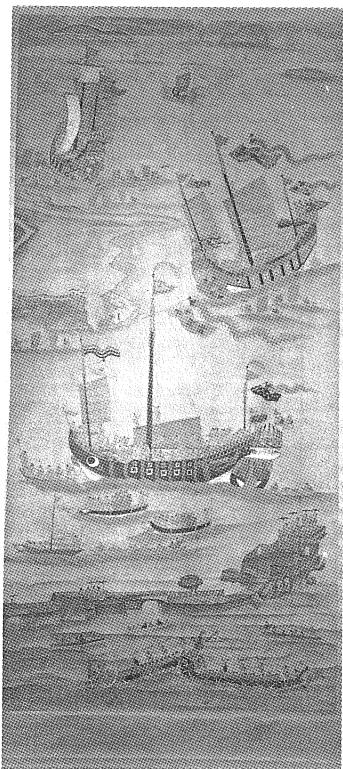
図版 10



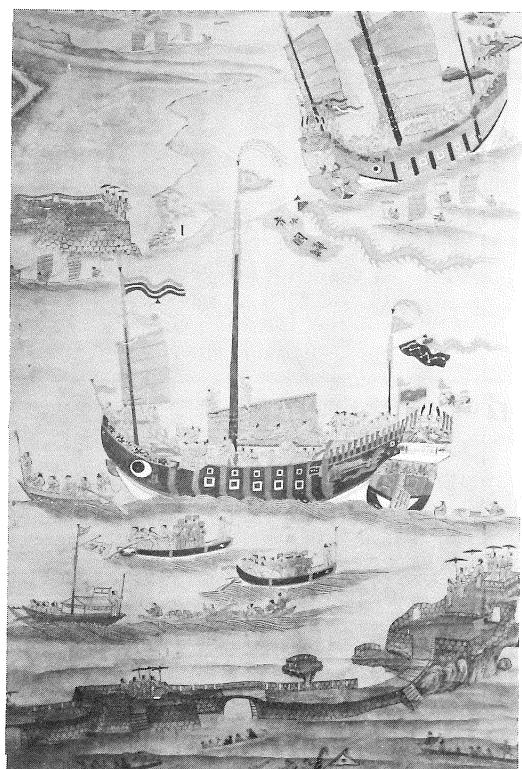
12-① 琉球人行列図（部分） 筆者不詳



12-② 琉球人行列図（部分）

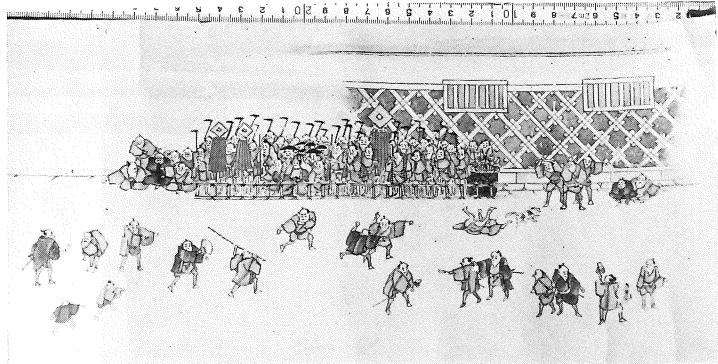


13 進貢船の図 筆者不詳



13-① 進貢船の図（部分）

図版 11



14-① 琉球人京府行列之図（部分）
森五郎筆 應需写



14-② 琉球人京府行列之図（部分）



14-③ 琉球人京府行列之図（部分）



14-④ 琉球人京府行列之図（部分）

解 説

1. 紙本着色首里城の図 一幅

友寄筑登之喜恒筆

那覇市寄宮 312 県立図書館

縦 116.3 cm 横 56.5 cm

友寄喜恒は童名を松金、唐名を恵光輪、雅号を石門という。那覇市上之蔵の出身。彼の作品では他に「那覇港の図」、「宜湾朝保肖像画」等が知られている。同図は画面手前から中山門、守礼門、欽会門、首里城城壁ならびに同内部の建物が詳細に描かれている。

2. 紙本着色那覇港の図 一幅

友寄筑登之喜恒筆

那覇市寄宮 312 県立図書館

縦 116.3 cm 横 56.5 cm

この「那覇港の図」も友寄喜恒の作品である。画面手前から屋良座、三重城、那覇市街、波之上、瀬原、泊、右側に御物城、奥武山、豊見城城などが描かれた鳥瞰図である。那覇港内には異国船、進貢船、山原船、サバニ等の種々の船が碇泊している様子が堅実な筆致で描かれている。

3. 紙本着色御冠船の図 一幅

筆者不詳

那覇市寄宮 312 県立図書館

縦 127.7 cm 横 59.5 cm

この絵の筆者はわからないが、この構図の絵を他にも見かけることがある。画面手前下（近景）に中三重城、三重城、琉球船（進貢船）、画面中央部（中景）に屋良謝（座）、清国船（御冠船）二隻が描かれ、画面最上部（遠景）に琉球船（進貢船）、慶良間諸島の一部が描かれている。この絵には琉球船と清国船が同時に描かれている点で非常に興味深かいものがある。

4. 紙本着色首里那覇鳥瞰図 一幅

筆者不詳

那覇市寄宮 312 県立図書館

縦 126.5 cm 横 116.8 cm

この絵は全体にわたって細密に描写され、また、他の軸物と比べて縦、横の比例がやや等しく、どちらかといえば正方形に近い。

画面右上に虬州書屋の印章〔朱文、（縦 5.6 cm、横 1.7 cm）〕が押されている。この印文は東恩納寛惇氏の雅号であることがわかった。（富島壯英氏の教示による。）つまり、元所有者の東恩納氏が捺印したものである。ただししかし、両面右下に縦 2.0 cm、横 2.2 cm の印章（白文）が押されており、現在印文不明のためよくわからない。この印文は今後の継続研究にしたい。

5. 紙本墨淡彩画仲田青毛の図 一幅

毛長禧佐渡山安健筆

岐阜県土岐市下石町322-2 佐渡山安正氏

縦76.3 cm 横75.2 cm 19世紀

この絵には落款、印章はないが、戦前から毛長禧の作品として伝えられてきたものである。この馬の絵は末吉麦門冬が儀保にあった東風平殿内からゆずり受けたもの（末吉安久氏談）といわれ、戦前から本土に渡り関係者によって大切に保存してきた。

馬の繊細な描写に較べて、画面下の淡彩を施した草の部分が大雑巴な描き方になっている。この点から考え合わせると、どうも下書きとしてこの絵は描かれたものと思われる。とはいえる、戦災によって本格的な作品が現存しない今日、貴重な作品といえよう。

6. 紙本着色首里那覇鳥瞰図 一幅

筆者不詳

那覇市首里大中町1の1 当館

縦170.9 cm 横59.5 cm

画面上部にそびえる如く首里城を描き、下方に那覇の町を詳細に描いた鳥瞰図である。画面下中央部にある印章（泉教）〔朱文（2.2 cm方印）〕があるが、いまのところ筆者についてはっきりしない。

7. 琉球風姿画全 画帳 23枚

昌興筆

那覇市首里大中町1の1 当館

縦21.9 cm 横17.7 cm

この画帳にはいろいろな風俗が描かれていて興味深く、その上、絵もなかなかいい。ただ後年、原画を黒い顔料で塗りつぶし、著しく画面を汚してあるのは誠に惜しまれる。画面に白文の印章が捺されているが、印文不明でいまのところ筆者は昌興というだけで詳しいことはわかっていない。その点、後の研究に俟ちたい。

8. 紙本墨画蘭の図 一幅

毛文達筆

那覇市首里大中町1の1 当館

縦30.8 cm 横45.5 cm 1821年

毛文達は和名を古波藏安章といい、雅号を印山と称した。絵を毛長禧佐渡山安健に学び、また中国北京では周少白から絵の指導を受けた。彼は人物、花鳥、山水いずれも描いたが、なかでもこの絵のように蘭の絵を得意とした。

9. 紙本着色肖像画 一幅

筆者不詳

今帰仁村謝名1772 幸地良盛氏

縦およそ110.0 cm 横およそ88.0 cm

この絵は誰の肖像画であるかは今のところはっきりしない。所有者の幸地氏の祖先良馬が中国へ

行ったという話が伝わっていることから、あるいは良馬その人の肖像画かも知れない。琉球の人々が中国へ渡ったとき、しばしば肖像画を描かせている例があるので、良馬が中国へ渡った際、記念に彼地の画家に描かせたとも考えられる。この肖像画の形式、構図、書き方などからして、中国人画家が描いたものにはほぼ間違いないと思われる。

10. 紙本墨画梅に岩図

鄭嘉訓筆

本部町石川 5 4 4 沖縄館

縦 113.3 cm 横 27.6 cm

この絵の筆者鄭嘉訓（1767～1832）は沖縄における著名な書家として知られている。一方においてこのような作品を描き残しているのは興味深い。この図はもともと松、竹、梅と三幅対として描かれたものようであるが、惜しいことには松、竹の二幅が揃っていない。

11. 紙本着色琉球船の図 一幅

筆者不詳

那覇市久茂地 3-3-6 山城時計店美術部

縦 26.4 cm 横 40.5 cm

この琉球船は漂流（?年10月11日）して、?年2月20日に銚子湊（現千葉県）に入港したときに描いたものであろう。画面右上に船の大きさ（長さ20間、横6間）、積数（6百石積）、乗込員（48人）などが記録されている。画面左下に医者米須子、船頭大城、上乗金城、小童樽と琉球人名が記入してある。この種の絵は同時に史料的価値も高いが、いまのところこの絵に描かれた琉球船が漂流した年代がはっきりおさえられていない。

12. 紙本着色琉球人行列図

筆者不詳

本部町石川 5 4 4 沖縄館

縦 18.9 cm 長さ 924.0 cm

この絵巻は他に較べて一段と小幅であり、ある種の目的のために描かれたものと思われる。つまり、鹿児島における登城ならびに寺社の参詣にはこのような琉球人行列の順序、方法等で行なうことの意味が絵巻の最初の部分に書かれている。このことから考えると、どうもこの絵巻は薩摩において記録を目的として描かれたものと思われる。

13. 紙本着色進貢船の図 一幅

筆者不詳

那覇市久茂地 3-3-6 山城時計店美術部

縦 148.0 cm 横 68.6 cm

進貢船の図はある一定の構図のもとに描かれたように思われる。この絵は県立図書館所蔵の御冠船の図（第3図参照）に非常によく似たものである。

14. 紙本着色琉球人京府行列之図 一巻

森五郎筆、応需写

那覇市久茂地3-15-2 大嶺薰美術館

縦16.3 cm 長さ1,187.0 cm 1843年(天保14)

この作品は1842年(天保13)将軍家慶の慶賀のため正使浦添王子一行が江戸上りをしたときの様子を描いたものである。原画は東海道川崎宿の森五郎が描き、それを応需(雪斎文舟)が写した。この絵巻は筆者、年代等がわかる点で史料的価値も高く、はなはだ興味深いものである。

A 絵画調査一覧 <鎌倉芳太郎氏調査ノートから>

<大正末—昭和初期>

大正末から昭和初めにかけて鎌倉芳太郎氏が「琉球芸術調査」を精力的に行なったことは前に述べておいた。戦争で琉球王朝時代の絵画が殆んど灰燼に帰してしまった今日、同氏の調査ノートや写真類は実に貴重な研究資料となっている。そこで、同氏の調査ノートから絵画関係をリストアップしてその資料目録を作成して紹介すると共に鎌倉氏の功績と学恩に対し衷心より敬意と感謝を申しあげるしだいである。

番号	作品名	筆者名	所在または所有者名
1	花鳥図	殷元良	高嶺朝教
2	猛虎図	向元瑚	県立図書館
3	同上	" "	" "
4	松下三仙図	自了	渡嘉敷通昭
5	竹之図	鄭嘉訓	" "
6	普庵禪師画像	石嶺親雲上伝莫	円覚寺仏殿
7	山水図	殷元良	比嘉朝健
8	雪山山水図	吳著温(仁)	" "
9	梅花尾長鳥図	毛長禧	" "
10	鷹捕小禽図	" "	" "
11	竹桃白鴨図	" "	" "
12	牡丹、カキツバタ尾長鳥	" "	" "
13	花鳥梅鳥鳩	" "	" "
14	鶴	殷元良	豊見城家
15	白澤之図	自了	" "
16	鴛鴦竹花図	向元瑚	" "
17	松下双鶴	" "	" "

18	桐牡丹鳳凰	向 元 瑞	豊 見 城 家
19	巴陵橋之図	" "	伊 江 殿 内
20	松下三仙図	自 了	" "
21	蘆 雁	翁 宏 漪	崎 原 家
22	菖蒲小禽	" "	" "
23	寿 老 人	" "	" "
24	山 水 図	鄭 嘉 訓	古 波 藏 家
25	" "	鄭 元 廣	" "
26	唐船之図	我那覇翁写	新 崎 盛 信
27	閔 帝 王	玉城朝薰	
28	松下寿老人図	孫 億	宮 里 才 ミ ト
29	鬪 雞 図	毛 長 禧	" "
30	蘆 雁 図	慎 思 九	" "
31	粟 鶴 図	殷 元 良	" "
32	花 鳥 図	" "	" "
33	閔帝王図	吳 著 温	" "
34	桐下鳳凰	向 元 瑞	" "
35	双鳳凰ノ九凹面額		" "
36	鬪 雞 図	作者不詳	" "
37	猛 虎 図	向 元 瑞	" "
38	12世朝富肖像画		玉 城 御 殿
39	13世朝敷肖像画		" "
40	尚円王御後絵	吳師度改画(1717)以後向元瑞, 毛長禧改画	尚 候 爵 家
41	尚真王 "	吳師度改画(1717)以後向元瑞改画	" "
42	尚清王 "	吳師度改画(1717)他	" "
43	尚元王 "		" "
44	尚永王 "		" "
45	尚寧王 "		" "
46	尚豊王 "		" "
47	尚 純 "		" "
48	尚賢王 "		" "
49	尚質王 "		" "
50	尚貞王 "		" "
51	尚益王 "		" "
52	尚敬王 "		" "
53	尚 哲 "		" "
54	尚穆王 "		" "
55	尚溫王 "		" "
56	尚成王 "		" "

57	尚瀬王 御後絵		尚 候 爵 家
58	尚育王 "		" "
59	鬪雞花房之図	毛 長 禧	" "
60	" 隼の図	" "	" "
61	" 尾花之図	慎 思 丸	" "
62	" 尾花祖父之図	" "	" "
63	" はなたれ之図	" "	" "
64	〔?〕鶴之図	殷 元 良	" "
65	野国名馬図	慎 思 九	" "
66	野国青毛名馬図	自 了	" "
67	水墨山水	" "	" "
68	蘆 雁	" "	" "
69	綱引之図	(慎 思 九)	浦 添 (御殿)
70	花 鳥 図	毛 長 禧	" "
71	板 絵 2枚		浦 添 朝 顕
72	(?)	(慎 思 九)	" "
73	花 鳥 卷	孫 億	諺 谷 山 家
74	前川親方肖像画		當 間 安 貞
75	" "		" "
76	宜湾親方肖像画		" "
77	竹 図	宜湾親方	" "
78	馬 之 図		" "
79	仙 人 図	自 了	玉 城 盛 康
80	高士逍遙図	" "	" "
81	閔 羽 図	毛 文 達	末吉(麦門冬?)
82	仲田青毛	(毛長禧)	末吉(麦門冬)
83	銘苅子画像	(原画) 殷元良, (模写) 島袋宗展	銘 苅 御 殿
84	天女画像	" "	" "
85	猛 虎 図	毛 長 禧	県立高等女学校
86	花 鳥 図	殷 元 良	屋 慶 名 政 方
87	猛 虎 図	" "	" "
88	?	吳 著 温	" "
89	?	吳 著 仁	" "
90	?	慎 思 九	" "
91	爬龍舟之図		北 村 重 敬
92	花 鳥 図	毛 長 禧	安 ノ 江 印 水
93	觀 音 像	伝 自 了	県 立 図 書 館
94	李白觀瀑図	自 了	" "
95	尚廷楷肖像画(自画像)	尚 廷 楷	" "

96	神像板絵		天 久 宮
97	" "		" "
98	仙人図	海北友松	" "
99	(首里那霸)屏風	筆者不詳	那霸市役所
100	?	自 了	伊江男爵家
101	虎の図	向 元 瑞	" "
102	寿老人	翁 宏 澄	" "
103	陶淵明	自 了	譜 久 山 家
104	蘆雁図	探 幽	" "
105	寿老人(左右獅子三幅対)	常 信	" "
106	白沢の図	自 了	仲 地 家
107	竹林七賢	" "	渡 嘉 敷 家
108	雪中双雉図	殷 元 良	屋 慶 名 家
109	閔羽図	玉城朝薰	邊 土 名 家
110	普化禪師図	殷 元 良	佐 久 川 恵 栄
111	水墨山水	殷 元 良	知 念 家
112	" "	" "	比 賀 家
113	普化禪師図	" "	萬 松 院
114	猫の図	" "	三 笑 堂
115	粟 鶴	" "	? 家
116	花鳥図	" "	日 比 家
117	閔羽図	" "	儀 間 泉 南
118	虎の図	向 元 瑞	高 良 暉 輝
119	軍馬図	尚 廷 楷	越 来 家
120	雲龍の図	毛 德 潤	東 風 平 家
121	梅 図	毛 長 璞	金 武 家
122	虎の図	" "	美 里 家
123	お多福の図	向 有 章	宜 湾 家
124	猿廻し(絵馬)	向 其 功	弁 財 天 堂
125	馬 図		" "
126	" "		" "
127	月下虎図		" "
128	宜湾朝保肖像画	恵 光 輸	
129	崇元寺の天井画	殷 元 良	崇 元 寺
130	祖先の肖像画		金 武 家
131	星之図		護 得 久 家
132	先祖の肖像画		當 間 家

133	觀音図		広徳寺
134	釋迦涅槃図		安國寺
135	虎の図	毛長禧	金武御殿
136	" "	向元瑚	比屋根医院
137	花鳥図	殷元良	渡名喜家

B 八重山藏元絵師の画稿目録

鎌倉氏が八重山博物館へ寄贈された八重山藏元絵師の画稿（108枚）がある。1977年石垣市の市政30周年記念行事と時期を同じくして八重山博物館で「鎌倉芳太郎関係資料展」が開催された。その目録は前回の報告書には掲載出来なかったので今回収録することにした。記して謝意を表する次第である。

番号	作 品 名	備 考
1	ミルクの行列（登野城村）	
2	稻束運搬の図	
3	道踊りの図	
4	旗頭の図	
5	棒枝の図	
6	馬競べの図	
7	" " (カタバル馬)	3面つづき
8	" " (新川村)	2面つづき
9	馬競べ、棒枝の図	
10	" "	
11	馬競べ (部分)	
12	ハイヌシマ棒 (新川村)	2面つづき
13	マーラン船の図	
14	" "	
15	風俗図 (手まり遊び、葉たばこ収納)	
16	大和風俗図	
17	ヤマカシラの図	
18	ヤマカシラと若者の図	
19	米穀収納の図	
20	狩の図	
21	旗頭の図	

22	女人風俗図		
23	船出見送りの図		
24	八重山島士族平民老若男女の図		
25	風俗図（漁労、行商、屠殺）		
26	ミルクの行列（登野城村）	着色	
27	豊年祭の図	3面つづき	
28	花鳥図		
29	菊図 (部分)		
30	" " ("		
31	牡丹図 ("		
32	" " ("		
33	松樹図		
34	鶯の図		
35	鳥図 (部分)		
36	鶴の図		
37	鳥の図 (鶴、鶯、鷹)		
38	饗宴の図		
39	" "		
40	唐獅子の図		
41	" "		
42	男女の図	着色	
43	" "	"	
44	手甲入墨の図		
45	三味線、胡弓弾奏の図		
46	棒枝 (石垣村)		
47	麒麟図 (權現堂内壁画の写し)		
48	草花図		
49	道踊り (平得村)	4面つづき	
50	" " (部分)	2面つづき	
51	" " (部分、後半、白保村)		
52	" " (部分、中央にミルク)		
53	道踊り (部分、左上にミルク)		
54	" " (部分)	2面つづき	
55	" " ("	"	
56	" " ("	"	
57	" " ("	"	
58	" " ("	"	
59	商人たちの図		

60	諸風俗図	
61	庵，猪，旗頭の図	
62	屋根越し往来図	
63	諸風俗図	
64	" "	
65	" "	
66	白澤馬道士の図	
67	仮屋風景 (餌つき他)	
68	諸風俗図	
69	うずくまる男	
70	山入りの図	
71	" "	
72	豊年祭の図	
73	士族と平民の図	
74	稻かりの図	
75	布さらしの図	
76	異人の図	
77	仏壇のかざりの図	
78	平民の女の図	
79	御獄まいりの図 (士族)	2面つづき
80	稻束の貢納と稻叢作り	
81	豊年祭の図	
82	異人風俗図 1.	
83	" " 2.	
84	棒枝と獅子舞図	3面つづき
85	ヤマカシラの図 (登野城, 平得, 真栄里)	" "
86	布さらしの図	2面つづき
87	公布調べの図	
88	地ばた織女の図	

なお、当館には以前に寄贈を受けた末吉安恭（麥門冬）のアルバム帳が一冊保存されている。そのなかに絵画資料写真（ただし写真が小さく、殆んど赤茶けて不鮮明である。）が52枚貼付けられていることを記しておこう。

[附 記]

この稿を書きおえてから沖縄市内のある人が華国の「芭蕉の図」を所有していることがわかった。その他、那覇市内でも3～4ヶ所から情報を得たが、調査する時間的余裕が作れなかった。記して今後の調査にゆずりたいと思う。